

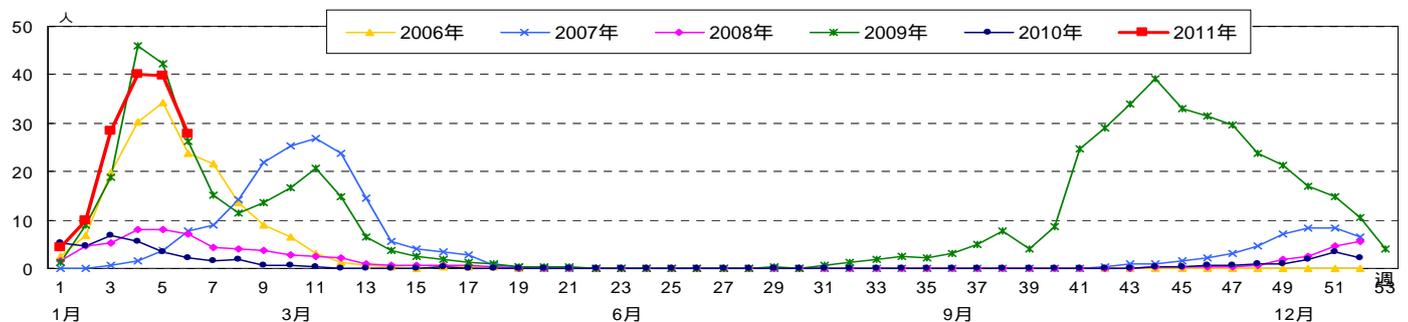
横浜市インフルエンザ流行情報 7 号 (第 6 週)

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

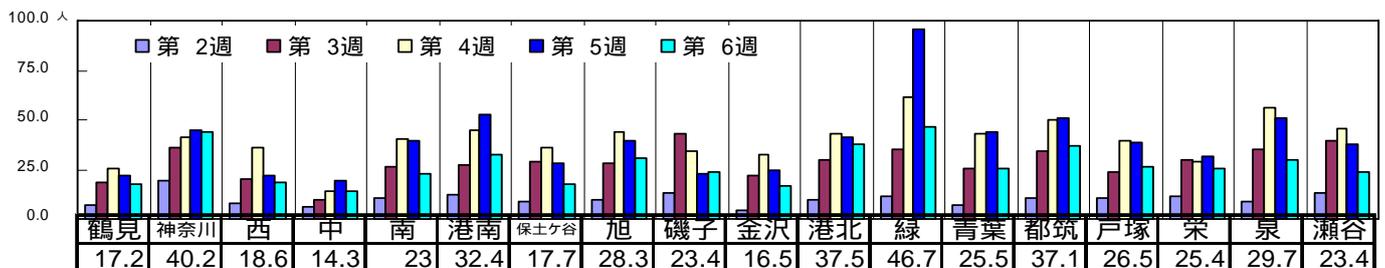
トピックス

- ・ 第 6 週 (2 月 7 日からの週) で、市内の定点当たり 27.64 でした。第 4 週では定点当たり 40.05 と警報を超えましたが、この 2 週間で A 型を主とするピークは過ぎたと思われます。
- ・ 市内の定点医療機関の協力による迅速キットでの結果は、A 型 2365 件、B 型 1001 件と約 7 対 3 です。A 型が減少傾向ですが、B 型は第 1 週から毎週増加しています。
- ・ 施設閉鎖は、第 5 週に 73 施設、患者 1845 人とピークでしたが、第 6 週では 62 施設、患者 1200 人とやや減少しています。

1 市内 150 か所 (小児科 91 内科 59) の定点医療機関からの報告で、第 50 週 (12 月 13 日 ~ 19 日) に「流行のめやす」である「定点あたり 1」を超え、第 4 週にピークとなりましたが、第 6 週 (2 月 7 日 ~) では定点あたり 27.64 でした。



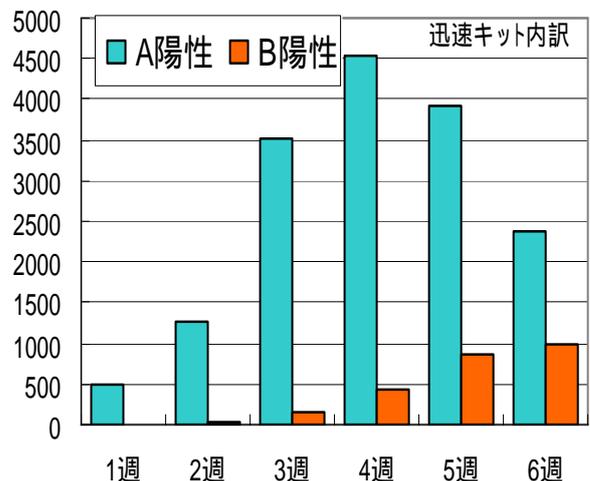
2 行政区別状況: 磯子区はほぼ横ばいですが、その他 17 区で報告数の減少が見られています。流行状況は、定点医療機関の受診した患者数を持って判断しているために、各区の医療機関の偏在、交通機関等アクセス状況、昼間人口の年齢構成等が影響します。各区の住民の罹患状況を直接反映するものではないことにご注意ください。



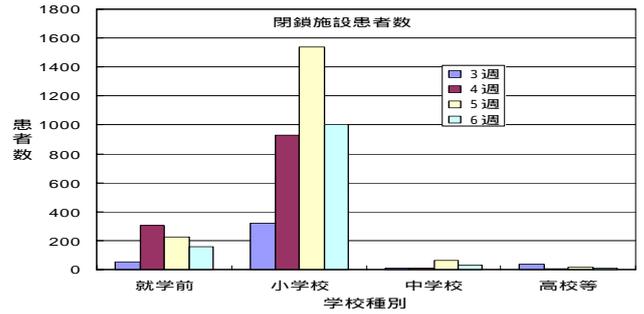
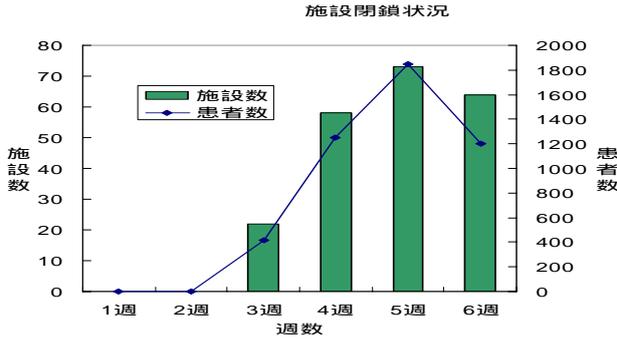
3 迅速キット内訳: 現時点での市内流行状況は、A 型が未だ優勢とは言え、減少傾向です。B 型の割合は、第 52 週までは、市内の 3 割を占めていましたが、第 2 週では 2%、第 3 週では 4%、第 4 週では 7%、第 5 週では 18% と第 6 週では 30% と増加傾向です。中区磯子区では B 型は半数以上となっています。磯子区では A 型は減少しているのに、B 型の伸びが大きく、全体として横ばいとなったと思われます。

引き続き今後の B 型の動向に注意が必要です。

また、1 定点医療機関から報告の迅速キット A 陽性 29 件うち A 新型が 8 件との情報もいただきました。



4 施設閉鎖状況: 第1週、第2週の報告はありませんでしたが、第5週では、73 施設、患者 1845 人の報告に至るまで増加していましたが、第6週では 62 施設、1200 人と減少しています。第6週の患者報告の内訳を見ると、84%が小学校、8%が就学前施設と、比較的の低年齢層が主となっています。



5 年齢層別集計: 第6週では、10歳未満の割合が64%です。20歳未満の割合が84%となっています。

6 全国抗体保有状況: インフルエンザの型によって、年齢層における抗体保有率が異なることにご注意ください。(国立感染症研究所HPより転用)

詳しい結果については 国立感染症研究所ホームページをご覧ください。 http://idsc.nih.go.jp/yosoku/Flu/2010Flu/Flu10_2.html

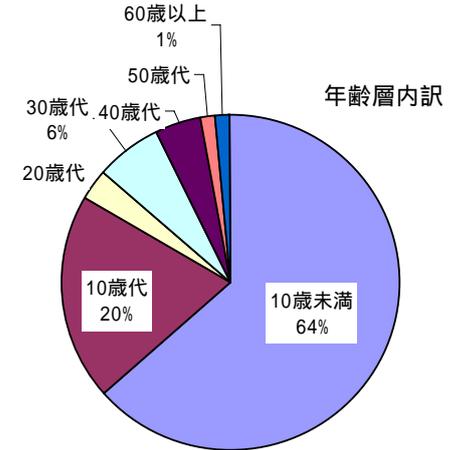


図3 インフルエンザA型に対する年齢群別HI抗体保有状況 [A/California/7/2009 pdm における2009年度と2010年度の結果比較] (2010年12月16日現在)

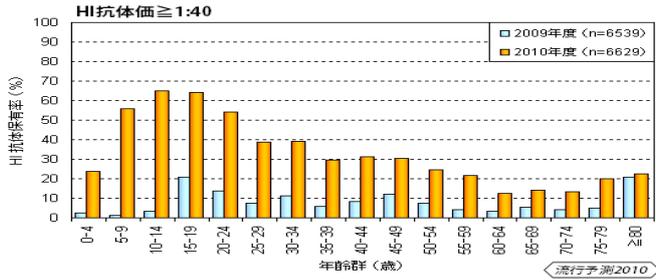


図1 インフルエンザA型に対する年齢群別HI抗体保有状況 [2010/11シーズン前] (2010年12月16日現在)

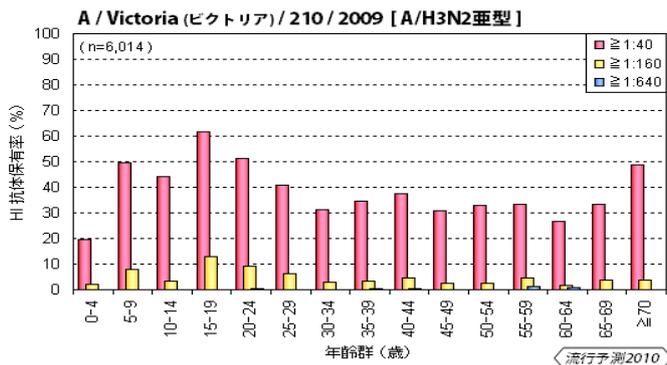
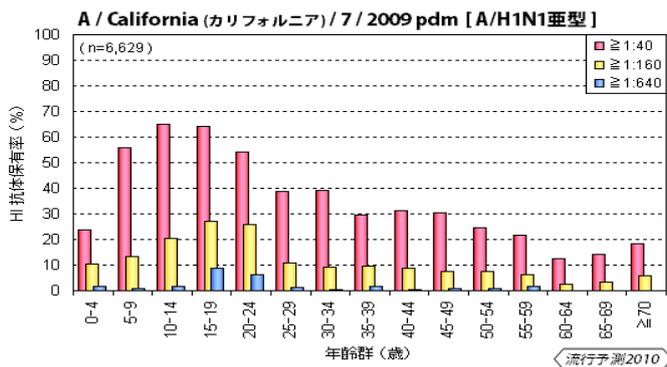
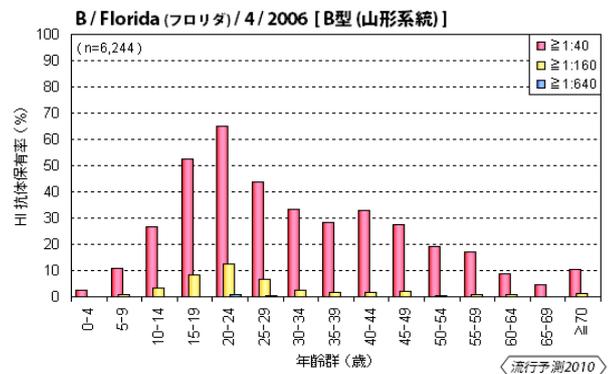
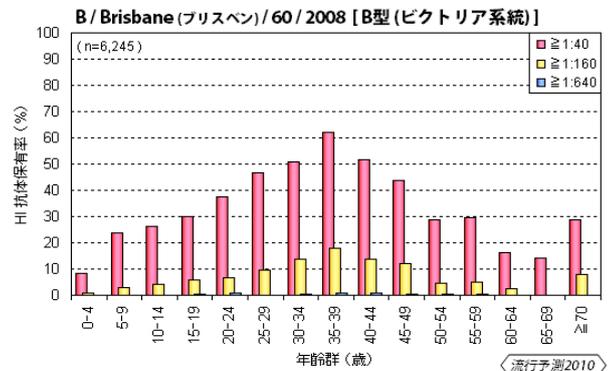


図2 インフルエンザB型に対する年齢群別HI抗体保有状況 [2010/11シーズン前] (2010年12月16日現在)



お問い合わせ先
 横浜市感染症情報センター
 (感染症・疫学情報課)
 754 - 9815